

〔問題提起〕 第2分科会

災害時の医療介護労働者の役割と地域づくり

運営委員	茂原 宗一	長野県厚生連労組
	吉田 岳彦	北海道医労連
	井上 純	徳島県医労連

※助言者・・・要請中

◇分科会趣旨／問題提起

2018年は、7月の西日本豪雨災害を始めとする各地の風水害や、6月の大阪府北部地震、9月の北海道胆振（いぶり）東部地震と立て続けに、震度6～7の大地震が起きるなど、改めて日本が災害列島であることを知らしめました。これからも大災害が予想される中で、私たち医療介護労働者の役割や課題を、長期的展望も含め考え行動する分科会にチャレンジします。

平時でも深刻な人手不足の医療介護現場では、スタッフの過労死や過労自死、メンタル不全などが深刻化し、長期休業者や離職者が増えています。この状況で関東大震災や東海・東南海・南海トラフ三連動地震、中央構造線による内陸型の直下型地震が発生した時、一体、日本のどこに医師や看護師を派遣する人的余裕のある医療機関があるのでしょうか。災害時の対応からも、労働環境の改善と医師や看護師の大幅増員が急務であると容易に想像できます。

さらに、地域医療構想に基づいた病院統廃合や医師要請数・看護師需給計画がつけられています。医療労働者の削減を前提とした「医療提供体制」では、地域を守ることはできません。

今回の分科会では、大災害への対応を検討しながら「安心して暮らせる地域づくり」について、人権を守る立場から皆さんと一緒に考えていきます。

1. 分科会の企画（進行）

- ①問題提起 ②自己紹介 ③基礎学習（要請中）
- ④事例報告（※グループ討論A）
- ⑤大災害を想定した医療機関の対応と人権を尊重した「地域づくり」の提案を検討（※グループ討論B）

〔※募集するレポート（例）〕

- (1) 実際に災害発生した地域の経験と事例から教訓を学び合います。
 - ・災害の実態と経験から学んだこと
 - ・災害時の労働組合の役割
 - ・災害時の対応と地域連携が果たす役割
- (2) 大規模災害に備えたとりくみを交流します。
 - ・激甚災害・大規模災害が必ず発生することを想定した訓練の事例報告
 - ・日常の防災・災害対応の事例報告
- (3) 介護施設の役割、介護職員の役割、在宅医療介護の役割、その他

以上